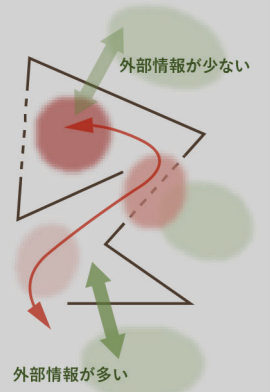


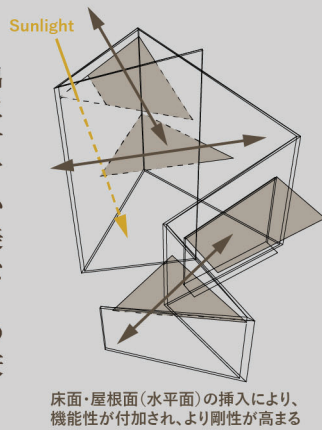
01 緩やかに折り重なる外部と内部の環境

空間の壁を「1枚」で折り込むことで、壁のオモテ（外部）とウラ（内部）が常に一对で相互に織り込まれていく。その関係性は折り方によって千差万別であり、柔らかくつながった他者との関係性は、内包される「思い」や「行動」を綴じ込め伝える「日本独自の祈念手法」の空気感そのものである。



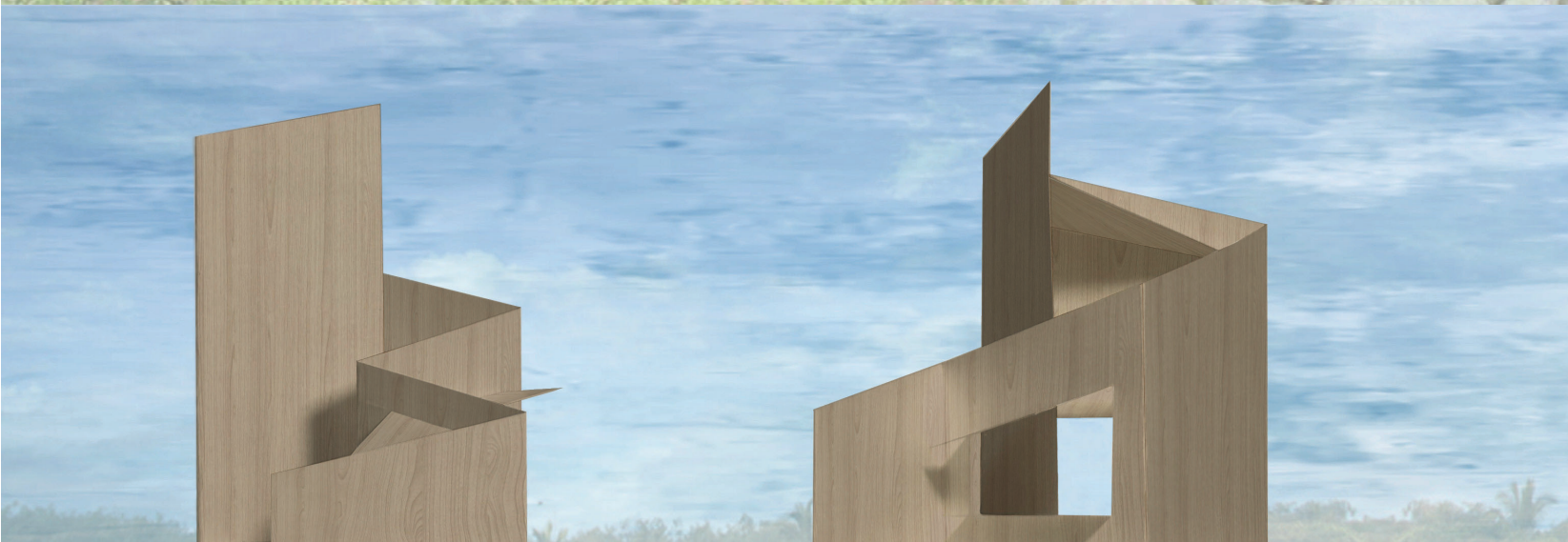
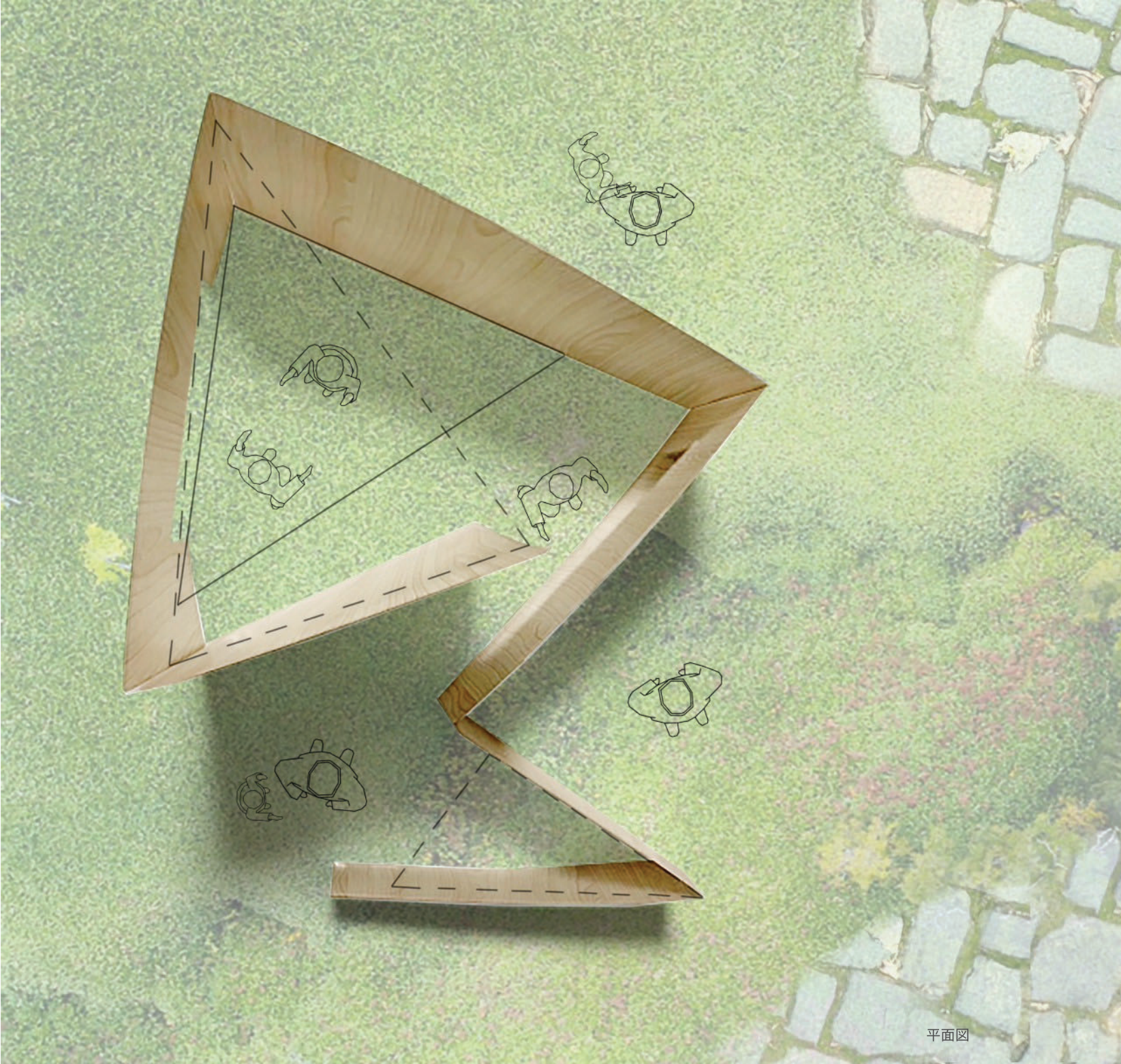
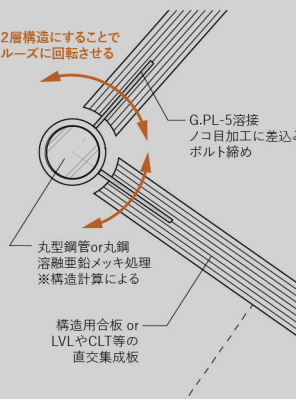
02 汎用性の高い空間性を生み出す手法

紙を折る行為は「構造化」そのものであり、折って出来上がる空間は、必然的に安定した構造形態を発揮する。休憩所やファニチュアのような小さな空間単位から大きなものは小劇場や美術館にも変容する。様々なスケールにおいて「折り」が醸し出す和やかな空間のつながりと安定した構造を兼ね備えた空間となり得る。



03 可動であることによるさらなる可能性

上記01～02を総合すると、恒久的な“建築”にすることも可能だが、折れ点をピン接合にすることで可動できる“仮設的”な衝突にすることも可能である。マルシェや舞台などの非日常空間の創出に寄与する“仮設建築”は、多くの人が日々往来する平和記念公園に新たな楽しみを付加させ、来訪者をワクワクさせる。



南立面図

東立面図

北立面図

西立面図